

報道発表資料の配付日時 10月11日(水) 15時00分

発表項目 (行事名)	令和5年度秋の輸送繁忙期の交通安全運動について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>10月16日(日)から10日間、根室管内地域・職域運動として「秋の輸送繁忙期の交通安全運動」を次のとおり実施します。 期間中は、各市町において啓発活動が実施されます。</p> <p>記</p> <p>1 期 間 令和5年(2023年)10月16日(月)～25日(水)の10日間 2 実施要綱 別紙のとおり 3 重 点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子供と高齢者の安全確保 ○ 飲酒運転の根絶 ○ スピードダウン ○ シートベルトの全席着用 ○ 居眠り運転の防止 ○ 自転車の安全利用 ○ 安全意識の向上 		
参 考			

報道(取材) に当たって のお願い	交通安全運動について周知を図るため、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブ との関係	同時配付	同時レク	(場所)

担 当 (連絡先)	根室振興局保健環境部環境生活課 (担当者: 永井 秀和) TEL ダイヤルイン 0513-22-2810 公用スマホ 30493		
--------------	--	--	--

令和5年

秋の輸送繁忙期の交通安全運動

10月16日(月)～10月25日(水)

根室管内実施要綱

運動の目的

この時期は、日増しに日没時間が早まり、薄暮時に歩行者が被害に遭う交通事故や、各種産業活動の追い込み期となることから、貨物輸送の増加とともに交通量が増え、疲労やスピードの出し過ぎなどによる交通事故の多発が懸念されます。

このため、地域・職域が中心となり通年運動として展開している7大セーフティキャンペーンを中心とした重点項目を設定し、各地域や職場において創意工夫を凝らした地域住民の交通安全意識を高める活動を行うとともに、交通ルールとマナーの実践を呼びかけ、交通事故を防止することを目的とします。

運動の進め方

市町・関係機関・団体等は、相互に連携を密にして、地域及び組織の実情に即し、多くの住民が参加できるような具体的な実施計画を策定するとともに、各種交通安全活動及び広報活動を通じて、この運動が広く住民に浸透・実践されるように推進します。

年間スローガン

“ ストップ・ザ・交通事故 ”

～ めざせ 安全で安心な北海道 ～

重 点

- 子供と高齢者の安全確保
- 飲酒運転の根絶
- スピードダウン
- シートベルトの全席着用
- 居眠り運転の防止
- 自転車の安全利用
- 安全意識の向上

主 催

北海道根室振興局、北海道警察釧路方面根室警察署・中標津警察署、北海道教育庁根室教育局
根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町、根室地区交通安全推進協議会

子供と高齢者の安全確保

- 運転者は、子供や高齢者を見かけたら徐行するなど、思いやりのある運転をしよう。
- 横断歩道を渡るときは、左右の安全を確認し、夕方からの外出は、夜光反射材の着用に努めよう。
- 高齢者の方は、自分の身体能力の変化を認識するとともに、安全な行動を実践しよう。

飲酒運転の根絶

- 運転者は、飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと認識し、「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」社会を構築しよう。
- 職場では、企業の責任として、ハンドルキーパー運動を展開するなど、飲酒運転の根絶を徹底しよう。

スピードダウン

- 運転者は時間に余裕をもち、スピードダウンで安全運転を実践しよう。
- 無理な追越しは大変危険なのでやめよう。また、十分な車間距離を確保するとともに、確実にウインカーを点灯し、周囲に意思表示をしよう。
- 職場では、スピードダウンによる安全運転と環境に配慮したエコドライブ運動の励行を徹底しよう。

シートベルトの全席着用

- 子供の体格に合ったチャイルドシートを使用し、ゆるみなどが生じないように、車に正しく装着しよう。
- 出かけるときは、全ての座席のシートベルトとチャイルドシートが正しく着用されているか、みんなで確かめよう。

居眠り運転の防止

- 運転者は、運転の前日に十分な睡眠をとろう。また、長距離ドライブの時は、あらかじめ2時間おきを目安に適切な休憩を計画しておこう。
- 職場では、睡眠不足にならないよう体調管理に気をつけて、ベストコンディションで安全運転を実践しよう。

自転車の安全利用

- 自転車は車道が原則で左側通行となり、歩道を通行する場合は歩行者優先を守ろう。
- 交差点では信号を遵守しよう。また、一時停止の標識は守り、必ず左右の確認をしよう。
- 二人乗り、無灯火、携帯電話やヘッドホンの使用はやめよう。
- 乗車の際はヘルメットを着用し、夜間には反射器材を装着しよう。

安全意識の向上

- 昼の間もライトをつけるデイ・ライトを行ったり、早めの点灯を行ったりすることで、運転者は交通安全を意識し、他の人にも交通安全を呼びかけよう。